

# 挿水に関する諸考察

佐賀縣 古賀 明

## 前 お き

挿水の技術的研究と植物ホルモンの起用とを以つてしたならば高価な果樹や庭園樹をより安価に生産することが可能ではないかと考えた。然し上記の試験は可成り複雑で不明の因子を挿入する恐れがあるので慎重を期することとし、先づ本年は或るべく多数の樹種、本数を取扱い或程度の概念を掴み、第二年度に本格的の試験受遣を作成し研究を進めることにしたので、茲に述べる事は中間発表までも行かぬ只数多く取扱つた挿水の諸考察に過ぎぬ事をお断りし度い。

## 1. 挿 水 の 実 績

別表の如く穂本数 10,000本より4,348本の活着苗を得たのであるが、活着率しき、ものに対しては其の主原因と思われるものを記して置いた。

## 2. 諸 考 察

### イ. 挿 水 の 季 節

三・四月又は雨季が適当としての直感であるが、二月初めより九月末まで雨天を録き殆んど毎日実施した。その間三回の除雪の外は灌水も日覆も行わなかつたが43%の活着苗を得た。

### ロ. 穂 木

1〜2年生枝、長さ15〜20cmのものを使用したが必要に応じては芽挿しに近い穂木も使用した。先端の削り方は通説に従つた。

### ハ. 植物生長ホルモン剤

数種のホルモン剤を約2,000本の穂本に試用したが其の効果に就いては未だ批判を考慮しない。

### ニ. 挿 入 の 深 さ

当初10〜20cm説を採用したが不成績なので五月より7〜10cmに変更した。活着率を急上昇させた一大原因と認める。

### ホ. 挿 し 方

一応耕してから挿水を並べ後充分踏圧する方策をとつた。固き土地に直接挿すことは穂木の先端を痛め不可なることを確めた。

### ヘ. モタラの被害

充分活着するまでのモタラの被害は軽微出まない。捕殺するか餌皿を替へる必要を認められた。

挿木成績一覧表

樹種名	挿木本数	活着本数	生%	不着樹の主原因と認める事項
もつこく	200	88	44	モタラ
いちぢく	120	111	91	
まさ	200	117	59	モタラ
かなめもち	250	160	60	モタラ、深挿し
さようちくとう	200	100	50	深挿し
くちなし	250	208	83	
桜桃	200	15	8	活着後長雨による根腐れ
くり(銀寄)	200	7	4	深挿し、その他不明
さぶるか	800	511	64	
西洋ぐみ	200	71	36	深挿し
さかき	200	91	46	深挿し
すいりゅうひは	180	109	60	
うめ(小田原)	100	72	72	
紅梅	100	0	0	深挿し、その他不明
つげ	60	16	25	モタラ
はんてん	100	68	68	
ポポー	70	27	30	長雨による根腐れ
つじ	1,200	755	63	
さぼん	12	11	91	
かき(嘉有)	220	6	3	深挿し、その他不明
其の他	5,138	1,805	35	
計	10,000	4,348	43	